

## 超極早生ミカン出番

三重JA南紀トツプ銘柄

【三重・伊勢】JA

伊勢管内の御浜町にある同JAの三重南紀統一選果場で14日、2024年産「三重南紀みかん」の出荷作業が始まった。トツプを切るのは超極早生温州ミカンの「味一号(品種「みえ紀南1号」)で、17日から販売開始となった。9月下旬までに約900トの出荷を計画している。

今年産は、夏場の猛暑と干ばつによる生育の遅れが懸念されたが、摘果作業やかん水作業などの生産者による栽培努力や、マルチフィルムを使った水分管理などの成果で、ほぼ平年並みの時期に収穫を迎えた。やや小玉だが、糖度も高く、酸とのバランスのとれた

食味に仕上がった。

同JA子会社のオレンジアグリでは、12日から収穫を始め、職員や研修生12人が作業に汗を流す。同JAの廣田智勇さんは「小ぶりではあるが、糖と酸のバランスのとれた良いミカンができた。ぜひ味わってもらいたい」と話した。

「みえ紀南1号」は、南紀地域の主力品種の極早生「崎久保早

生」と「サマーフレッシュ」の交配種で、露地栽培の温州ミカンのトツプを切って9月中旬から収穫できる。



丁寧に「味一号」の表面を確認する統一選果場の作業員

同選果場では、作業員約30人が2段階の目視による選別と、糖酸及び腐敗果センサーによる選果、箱詰めなどの出荷作業に追われている。中でも外観に問題なく、糖度10以上、酸1・1%以下の基準をクリアしたものは、三重ブランド「みえの一番星」として出荷する。

東海

情報提供は支所またはJA中央会へ

中部支所

〒460-0003  
名古屋市中区錦3-3  
-8 JAあいちビ